

柏の景気情報（平成18年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成18年9月分）

○ 調査期間 : 平成18年9月15日 ~ 9月21日

○ 調査対象 : 柏市内99事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	99	74	74.7%
建設	17	15	88.2%
製造	23	18	78.3%
卸・小売	40	27	67.5%
サービス	19	14	73.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【18年9月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは全産業で2ヵ月ぶりマイナス拡大 ▶

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.8(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が▲4.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△5.5(同△16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲26.6(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲21.4)、卸小売業▲14.8(同▲10.7)である。

【建設業】では、「価格競争が低価格レベルに下げ止まりをきたし品質問題になりかねない」(建築工事)、「公共工事の減少によりダンピング競争が出始めている」(土木工事)、「民間工事は順調に推移しているが、価格競争が厳しい」(土木工事)、「コストダウン当たり前の風潮が強く根付いている」(建築工事)との価格競争に関する声が多く寄せられた。また、「廃業する会社もあり、厳しい状況に変わりない」(建築工事)との厳しい声や、「良い物を良いと分らせる努力を打ち出して生きたい」(建築工事)との声も寄せられた。

【製造業】では、「原油高騰による原材料上昇が止まらない。燃料費も50%以上上昇、これから需要期を迎え苦悩している」(工業用ゴム製品製造業)、「鋼鉄材・非鉄金属の値上がり激しく、11月にさらに値上げ、原材料費が製造原価を押し上げ、利益を圧迫」(その他金属製品製造)との原油高騰の影響や、「設備投資減少傾向」(デバイス製造業)との声も寄せられる一方で、「複写機業界は、好転。良い方向へ向かいつつあるが、一時的なものか継続するかを注視」(その他鉄鋼)や、「ユニットハウスのレンタルは好調を維持」(建築用金属製品製造)との明るい声も寄せられた。

【卸・小売業】では、「大型店でらぼーとの募集も始まり、パート従業員が集まらない、これに伴い人件費が高騰している」、「大型店開業により、商業施設の影響が今から心配される」(各種商品小売)との大型店出店に関する声も寄せられた。また、「原油高騰から文具・事務用品の紙製品、ビニール製品の値上げが激しい。販売価格に転嫁できず、厳しい状況」(飲食料品小売)、「原油価格に引っ張られ、LPガス価格も史上最高圏で推移。不需要期であり、これ以上原価が変化すると再値上げを余儀なくされる」(燃料小売)との原油高騰の声が寄せられた。「雨に弱い店のため秋の長雨、台風などの影響が出ないことを祈っている状況」(各種商品小売)、「涼しいシーズンとなるため、売上上昇に期待」(菓子・パン小売)とのその反面、「残暑の影響が、秋物商品の売れ行きが良くない」(各種商品小売)、「気温の低下により秋物の動きが良い(衣・食・住ともに昨比クリア)」(各種商品小売)との天候の影響に関する声も寄せられた。「野菜は地産地消を図り、消費者の期待に応えたい。果実は秋冬としてみかん、りんご、柿をメインに集荷力を高め、売上拡大を図りたい」(食料卸売)、「安定した入荷、需要供給を維持していきます」(食料卸売業)との声や、「専門店の営業時間を30分延刻により夜間の売上を伸ばし、販売の強化を実施していく」(各種商品小売)、「毎年、薬価の見直しが検討されるが今年は据え置きになった」(医薬品・化粧品小売業)との声も寄せられた。また、「月初から開催した「Uresii Week」の集客イベントでは多くの集客を図ることができた」(各種商品小売)との明るい声や、「売れ筋が不明のため先行きが懸念」(各種商品小売)、「入店客数は依然前年を下回る推移」(各種商品小売)、「20日からの給料日前は低調な推移となった」(各種商品小売)との声も寄せられた。

【サービス業】では、「飲酒取締りや景気変動で飲食店にとっては向かい風。今まで以上に難しい時期」(食堂・レストラン)との厳しい声も寄せられた。「柏の葉方面の空室の問い合わせが増え始めてきた」(不動産管理業)、「スポーツ団体(Jリーグ、バスケット、へらぶな釣り大会)の宿泊好調。宴会では展示会の開催多数有り」(ホテル)との声も寄せられた。

◎原油高騰

「原油の高騰による原材料の上昇が止まらない。燃料費も50%以上上昇、これから需要期を向かえ苦悩している」、「石油の上昇から文具・事務用品の紙製品、ビニール製品の値上げが激しい」、「高騰を続ける原油価格に引っ張られ、LPガス価格も史場最高圏で推移している」との声が寄せられた。

◎秋物商戦

「9月に入り気温の低下により秋物の動きが良くなってきている(衣・食・住ともに昨比クリア)、売上の柱となる売れ筋が不明のため先行きが懸念される」、「今後、涼しくなるにつれシーズンとなるため、売上上昇に期待」、「残暑の影響が、秋物商品の売れ行きが良くない」との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲ 2.6	△ 7.6	△ 23.5	▲ 9.3	▲ 28.5
5月	▲ 15.2	▲ 21.4	△ 5.8	▲ 26.6	▲ 9.0
6月	▲ 17.1	▲ 42.8	△ 33.3	▲ 33.3	▲ 21.4
7月	▲ 16.4	▲ 42.8	△ 22.2	▲ 21.4	▲ 30.7
8月	▲ 10.6	▲ 33.3	△ 16.6	▲ 10.7	▲ 21.4
9月	▲ 14.8	▲ 26.6	△ 5.5	▲ 14.8	▲ 28.5
見通し	▲ 6.7	▲ 13.3	△ 5.5	▲ 3.7	▲ 21.4

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 5.4	△ 4.0	▲ 17.5	▲ 6.7	▲ 39.1	▲ 31.0	△ 13.5	△ 13.5
建設	▲ 20.0	▲ 13.3	▲ 46.6	▲ 13.3	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 6.6	△ 6.6
製造	△ 27.7	△ 5.5	△ 11.1	△ 5.5	▲ 44.4	▲ 27.7	△ 11.1	△ 5.5
卸・小売	▲ 11.1	△ 14.8	▲ 22.2	▲ 7.4	▲ 40.7	▲ 44.4	△ 18.5	△ 14.8
サービス	▲ 21.4	±0.0	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 28.5	▲ 21.4	△ 28.5	△ 28.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 14.8	▲ 6.7	▲ 10.8	▲ 8.1
建設	▲ 26.6	▲ 13.3	▲ 6.6	△ 6.6
製造	△ 5.5	△ 5.5	△ 5.5	▲ 5.5
卸・小売	▲ 14.8	▲ 3.7	▲ 18.5	▲ 11.1
サービス	▲ 28.5	▲ 21.4	▲ 21.4	▲ 21.4

【平成18年9月の業況についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.8(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が▲4.2ポイント拡大した。

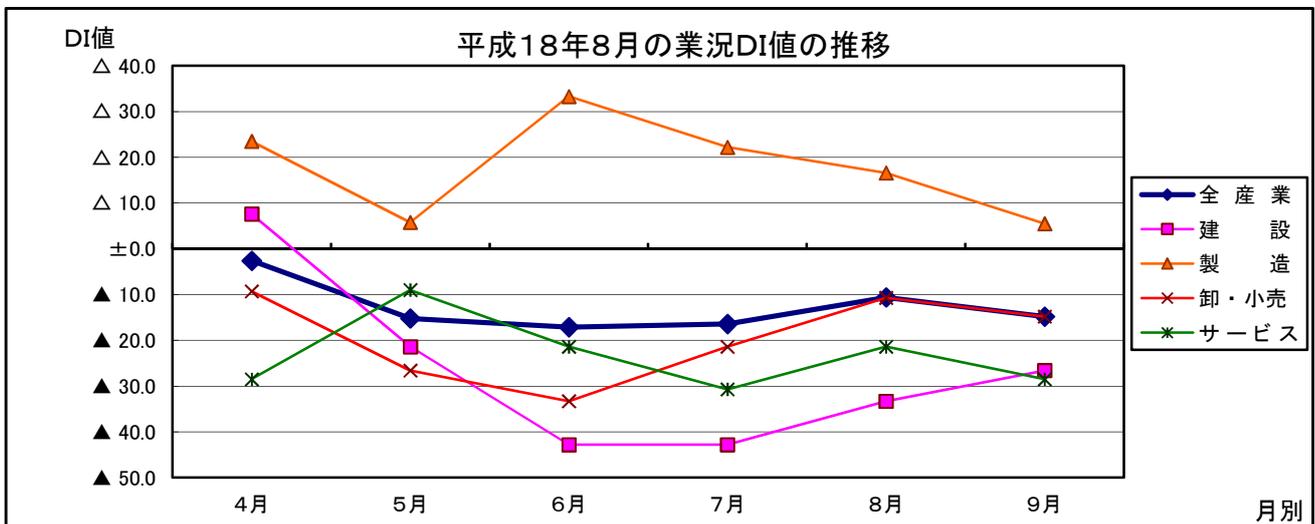
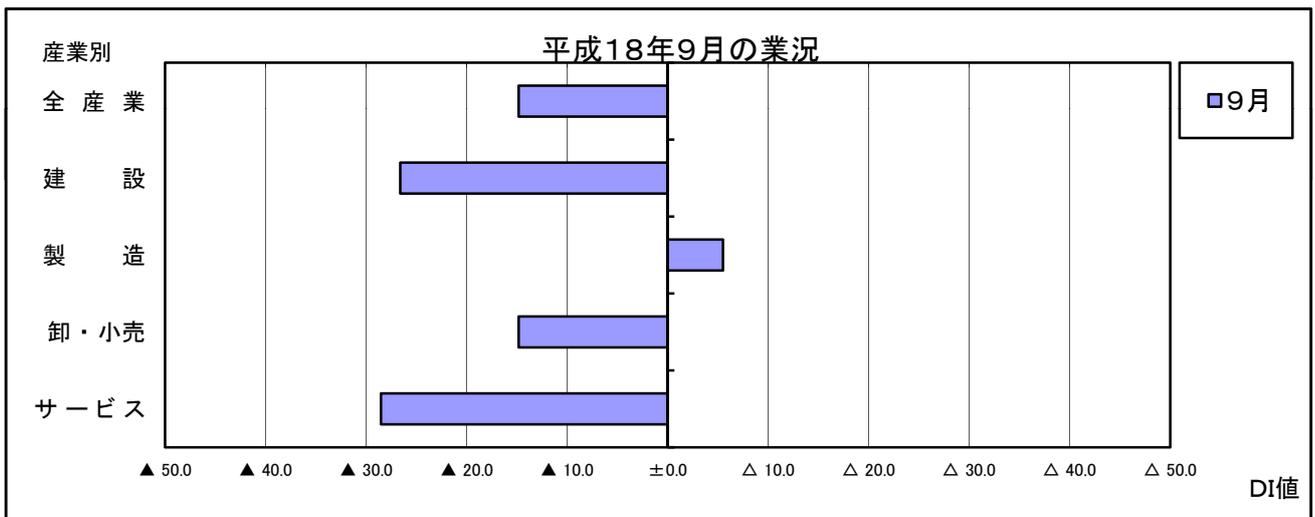
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△5.5(同△16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲26.6(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲28.5(同▲21.4)、卸小売業▲14.8(同▲10.7)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.7(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が△10.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△5.5(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲3.7(同▲17.8)、建設業▲13.3(同▲26.6)、サービス業▲21.4(同▲28.5)である。

平成18年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲ 2.6	▲ 15.2	▲ 17.1	▲ 16.4	▲ 10.6	▲ 14.8	▲ 6.7 (▲ 17.3)
建設	△ 7.6	▲ 21.4	▲ 42.8	▲ 42.8	▲ 33.3	▲ 26.6	▲ 13.3 (▲ 26.6)
製造	△ 23.5	△ 5.8	△ 33.3	△ 22.2	△ 16.6	△ 5.5	△ 5.5 (±0.0)
卸・小売	▲ 9.3	▲ 26.6	▲ 33.3	▲ 21.4	▲ 10.7	▲ 14.8	▲ 3.7 (▲ 17.8)
サービス	▲ 28.5	▲ 9.0	▲ 21.4	▲ 30.7	▲ 21.4	▲ 28.5	▲ 21.4 (▲ 28.5)



【平成18年9月の売上についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.4(前月水準▲4.0)となり、マイナス幅が▲1.4ポイント拡大した。

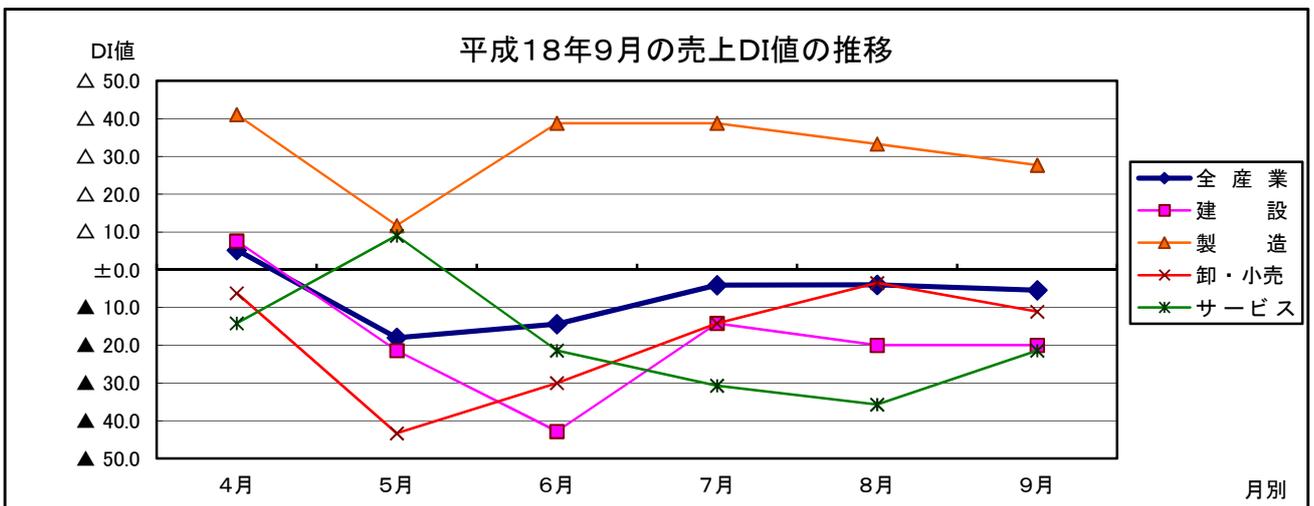
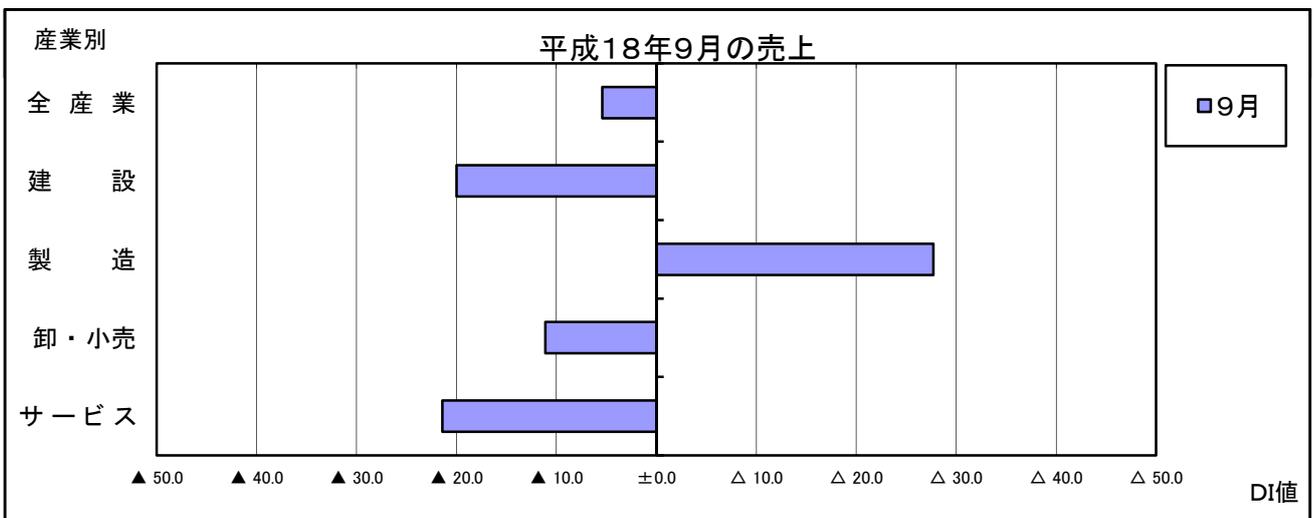
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△27.7(同△33.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲21.4(同▲35.7)である。変らない業種は、建設業▲20.0(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲11.1(同▲3.5)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△4.0(前月水準▲8.0)となり、プラス幅が△12.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△5.5(同△22.2)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△14.8(同▲7.1)であり、△21.9ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲21.4)、建設業▲13.3(同▲33.3)と、サービス業は△21.4ポイント、建設業は△20.0ポイントとマイナス幅が大幅に縮小する見通しである。

平成18年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	△5.2	▲18.0	▲14.4	▲4.1	▲4.0	▲5.4	△4.0(▲8.0)
建設	△7.6	▲21.4	▲42.8	▲14.2	▲20.0	▲20.0	▲13.3(▲33.3)
製造	△41.1	△11.7	△38.8	△38.8	△33.3	△27.7	△5.5(△22.2)
卸・小売	▲6.2	▲43.3	▲30.0	▲14.2	▲3.5	▲11.1	△14.8(▲7.1)
サービス	▲14.2	△9.0	▲21.4	▲30.7	▲35.7	▲21.4	±0.0(▲21.4)



【平成18年9月の採算についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.5(前月水準▲18.6)となり、マイナス幅が△1.1ポイント縮小した。

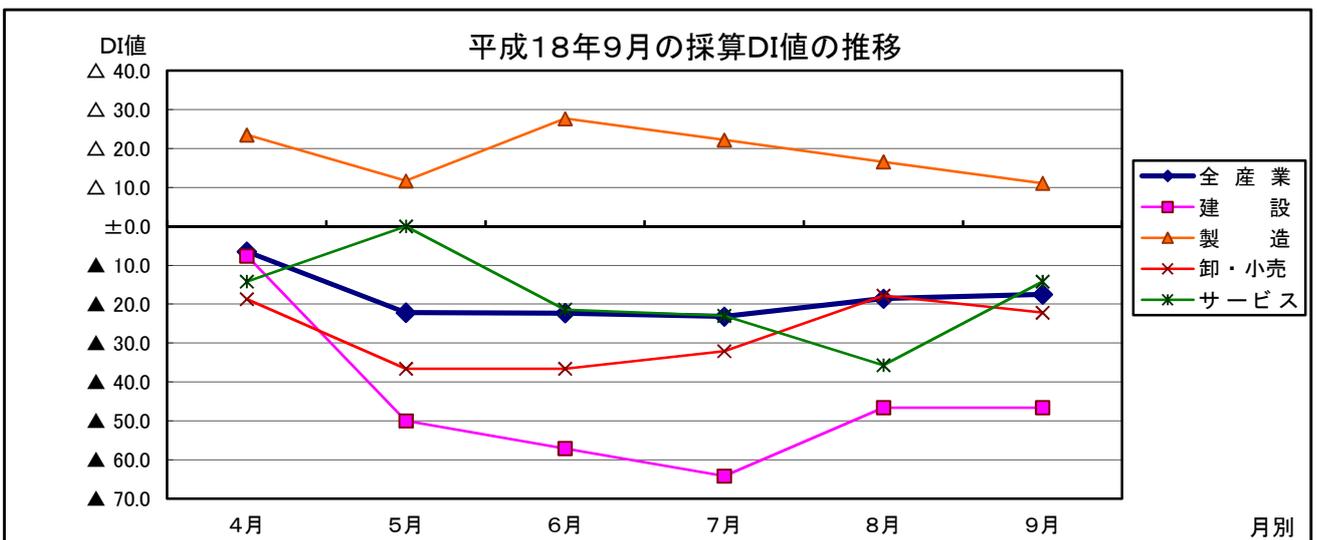
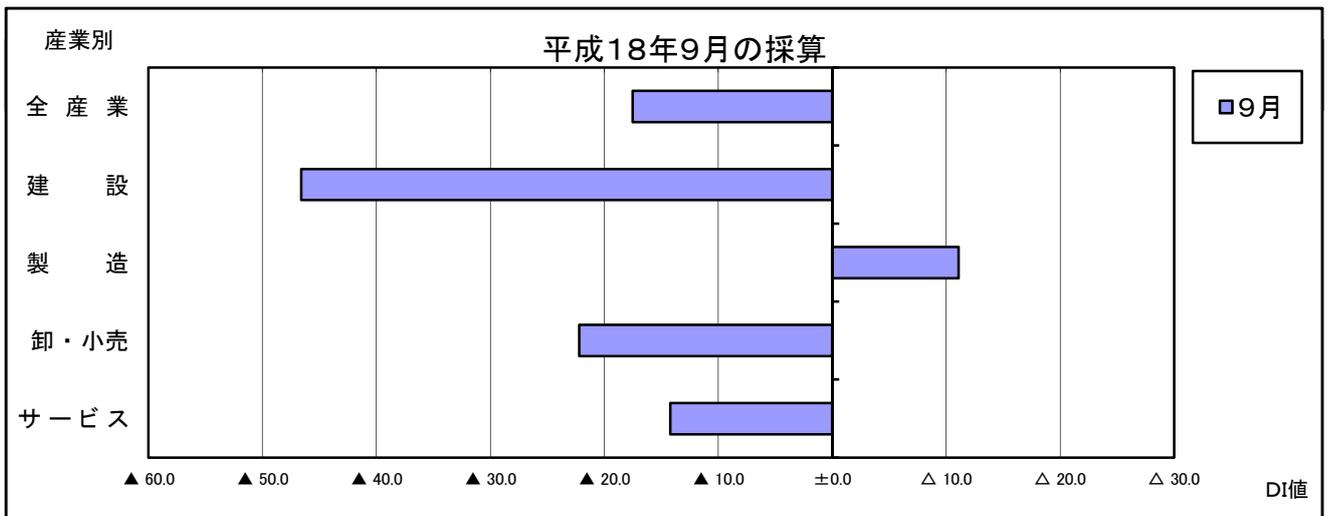
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△11.1(同△16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲14.2(同▲35.7)であり、マイナス幅が▲21.5ポイントと大幅に縮小した。変らない業種は、建設業▲46.6(同▲46.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲22.2(同▲17.8)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.7(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が△10.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△5.5(同△22.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲13.3(同▲60.0)、卸小売業▲7.4(同▲21.4)である。特に、建設業はマイナス幅が▲46.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、サービス業▲14.2(同▲14.2)である。

平成18年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲ 6.5	▲ 22.2	▲ 22.3	▲ 23.2	▲ 18.6	▲ 17.5	▲ 6.7 (▲ 17.3)
建設	▲ 7.6	▲ 50.0	▲ 57.1	▲ 64.2	▲ 46.6	▲ 46.6	▲ 13.3 (▲ 60.0)
製造	△ 23.5	△ 11.7	△ 27.7	△ 22.2	△ 16.6	△ 11.1	△ 5.5 (△ 22.2)
卸・小売	▲ 18.7	▲ 36.6	▲ 36.6	▲ 32.1	▲ 17.8	▲ 22.2	▲ 7.4 (▲ 21.4)
サービス	▲ 14.2	±0.0	▲ 21.4	▲ 23.0	▲ 35.7	▲ 14.2	▲ 14.2 (▲ 14.2)



【平成18年9月の仕入単価についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.1(前月水準▲45.3)となり、マイナス幅が△6.2ポイント縮小した。

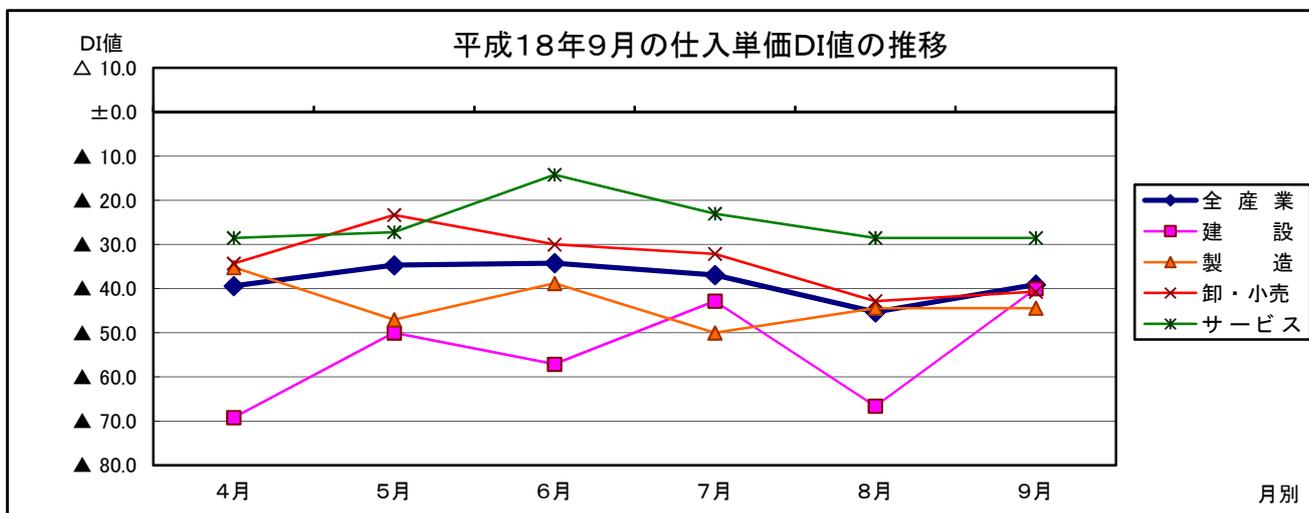
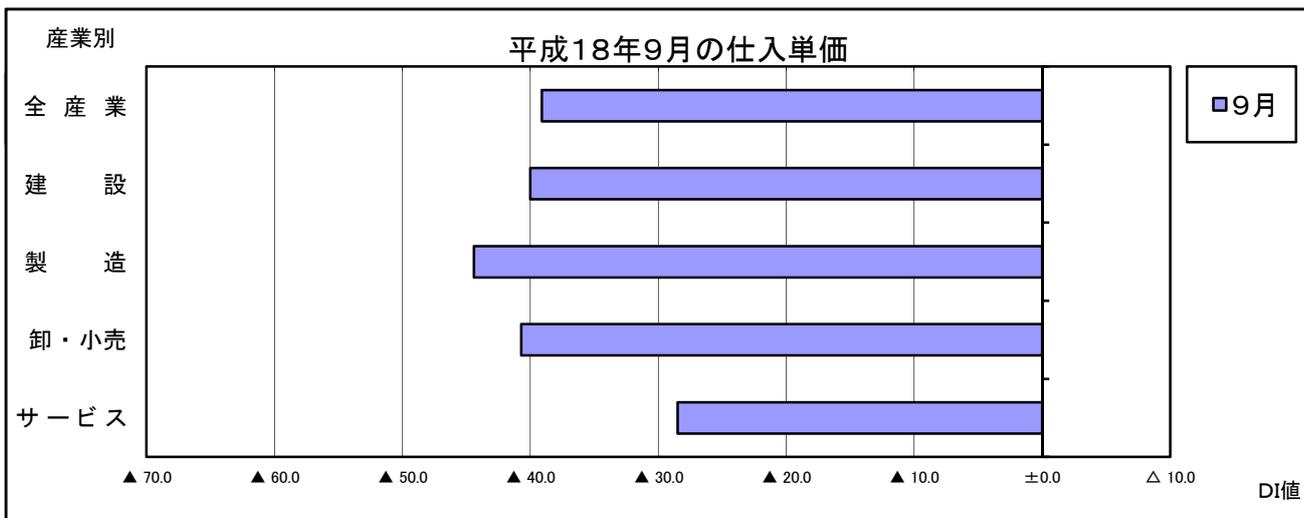
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲66.6)、卸小売業▲40.7(同▲42.8)である。特に、建設業はマイナス幅が▲26.6ポイントと大幅に縮小した。変らない業種は、サービス業▲28.5(同▲28.5)、製造業▲44.4(同▲44.4)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.0(前月水準▲34.6)となり、マイナス幅が△3.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲46.6)、サービス業▲21.4(同▲28.5)である。特に、建設業はマイナス幅が▲26.6ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲27.7(同▲22.2)、卸小売業▲44.4(同▲39.2)である。

平成18年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲39.4	▲34.7	▲34.2	▲36.9	▲45.3	▲39.1	▲31.0(▲34.6)
建設	▲69.2	▲50.0	▲57.1	▲42.8	▲66.6	▲40.0	▲20.0(▲46.6)
製造	▲35.2	▲47.0	▲38.8	▲50.0	▲44.4	▲44.4	▲27.7(▲22.2)
卸・小売	▲34.3	▲23.3	▲30.0	▲32.1	▲42.8	▲40.7	▲44.4(▲39.2)
サービス	▲28.5	▲27.2	▲14.2	▲23.0	▲28.5	▲28.5	▲21.4(▲28.5)



【平成18年9月の従業員についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△13.5(前月水準△20.0)となり、プラス幅▲6.5ポイント縮小した。

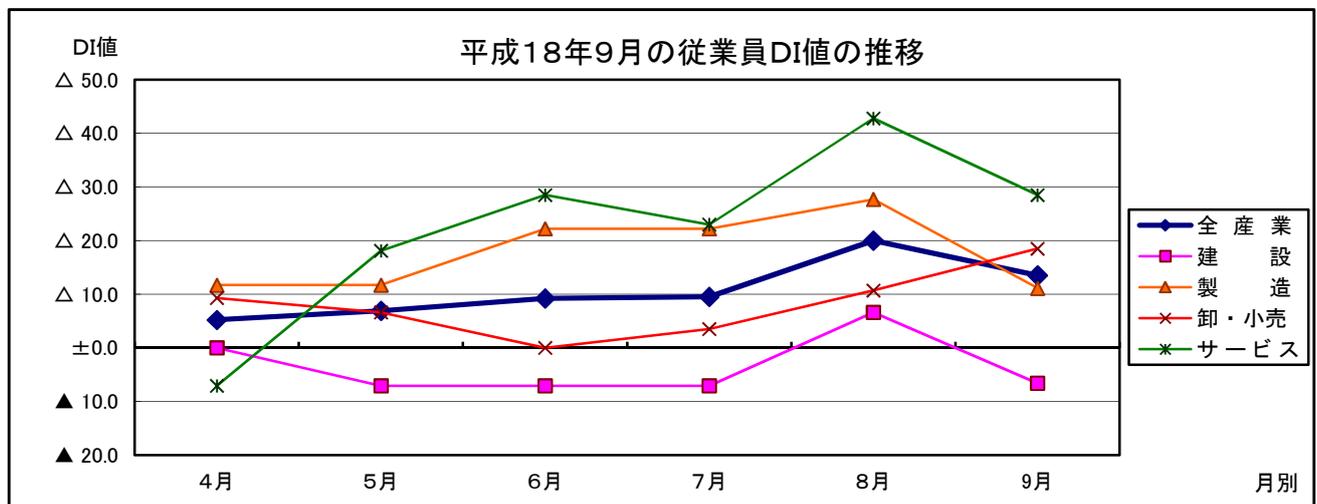
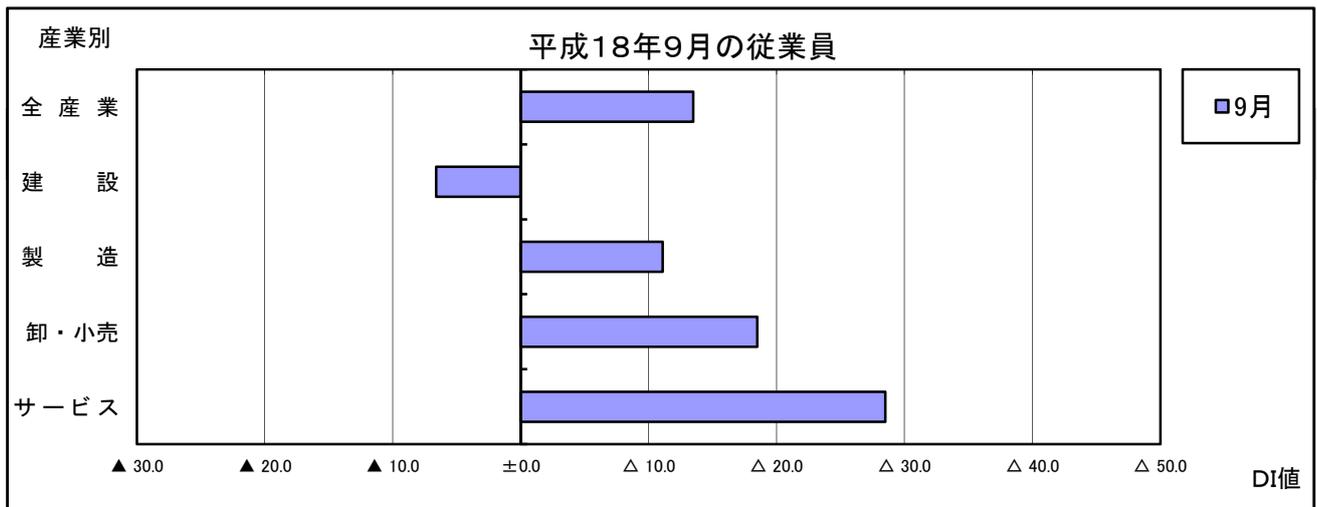
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△10.7(同△18.5)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業△11.1(同△27.7)、サービス業△28.5(同△42.8)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲6.6(同△6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△13.5(前月水準△17.3)となり、プラス幅が▲3.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業△14.8(同△14.2)である。変らない見通しの業種は、建設業△6.6(同△6.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△28.5(同△42.8)、製造業△5.5(同△11.1)である。

平成18年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	△ 5.2	△ 6.9	△ 9.2	△ 9.5	△ 20.0	△ 13.5	△ 13.5 (△ 17.3)
建設	±0.0	▲ 7.1	▲ 7.1	▲ 7.1	△ 6.6	▲ 6.6	△ 6.6 (△ 6.6)
製造	△ 11.7	△ 11.7	△ 22.2	△ 22.2	△ 27.7	△ 11.1	△ 5.5 (△ 11.1)
卸・小売	△ 9.3	△ 6.6	±0.0	△ 3.5	△ 10.7	△ 18.5	△ 14.8 (△ 14.2)
サービス	▲ 7.1	△ 18.1	△ 28.5	△ 23.0	△ 42.8	△ 28.5	△ 28.5 (△ 42.8)



【平成18年9月の資金繰りについての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.8(前月水準▲9.3)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大した。

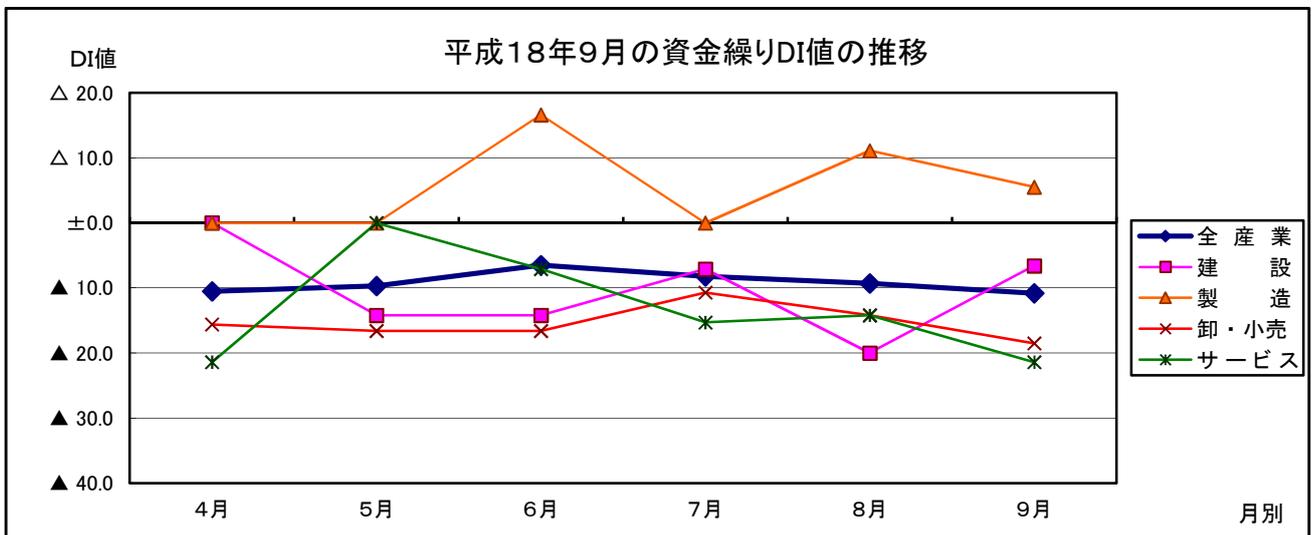
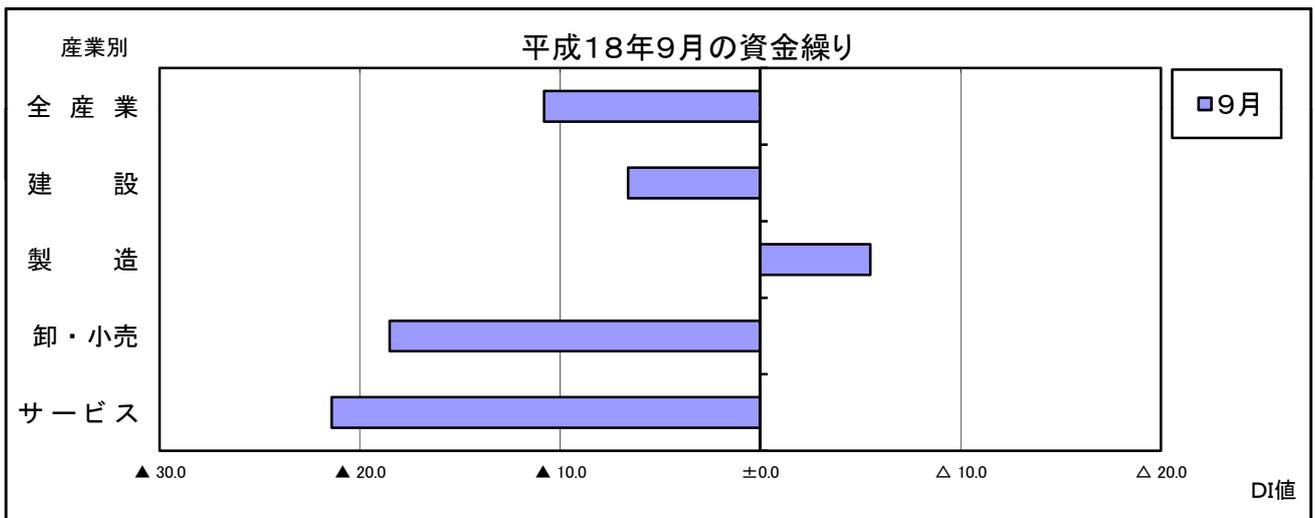
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、製造業△5.5(同△11.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲6.6(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲21.4(同▲14.2)、卸小売業▲18.5(同▲14.2)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.1(前月水準▲6.6)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△6.6(同▲6.6)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲11.1(同▲17.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲21.4(同±0.0)であり、▲21.4ポイントと大幅に悪化する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.5(同△5.5)である。

平成18年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成18年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲10.5	▲9.7	▲6.5	▲8.2	▲9.3	▲10.8	▲8.1(▲6.6)
建設	±0.0	▲14.2	▲14.2	▲7.1	▲20.0	▲6.6	△6.6(▲6.6)
製造	±0.0	±0.0	△16.6	±0.0	△11.1	△5.5	▲5.5(△5.5)
卸・小売	▲15.6	▲16.6	▲16.6	▲10.7	▲14.2	▲18.5	▲11.1(▲17.8)
サービス	▲21.4	±0.0	▲7.1	▲15.3	▲14.2	▲21.4	▲21.4(±0.0)



【平成18年9月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード
建設	市場での工事は増えた。今までの成り行きからコストダウン当たり前の風潮が強く根付いている。良い物を良いと分からせる努力を打ち出して生きたい。	・受注増加 ・コストダウン
	見積もり件数は増えているものの、近年の価格競争が低価格レベルに下げ止まりをきたし品質問題になってきかねない。	・見積増加 ・価格競争 ・低価格 ・品質問題
	廃業する会社もあり、厳しい状況に変わりありません。	・廃業、倒産 ・厳しい状況
	公共工事の減少によりダンピング競争が出始めている。民間工事は全体に順調に推移しているが、価格競争が厳しい。	・公共工事減少 ・ダンピング競争 ・民間工事順調 ・価格競争
	防災訓練での建設業界の評価は高い、低い？	・防災訓練 ・業界評価
製造	原油の高騰による原材料の上昇が止まらない。燃料費も50%以上上昇しており、これから需要期を迎え苦悩している。	・原油高騰 ・仕入上昇 ・燃料費上昇
	複写機業界は、好転しており当社も良い方向へ向かいつつあるが、一時的なものか継続するかは注視していかなければならない。	・業界好転
	ユニットハウスのレンタルは好調を維持	・レンタル好調
	ここ数年、鋼鉄材・非鉄金属の値上がりが激しいが、11月にさらに値上げがあるそうで、原材料費が製造原価を押し上げ、利益を圧迫している。	・値上傾向 ・仕入上昇
	設備投資減少傾向	・設備投資減少
卸・小売	世の中が少し落ち着いて良い方向に向かうことに期待した報告です。	
	9月に入り気温の低下により秋物の動きが良くなってきているが(衣・食・住ともに昨比クリア)、売上の柱となる売れ筋が不明のため先行きが懸念されます。雨に弱い店のため今後の秋の長雨、台風などの影響が出ないことを祈っている状況です。	・天候の影響 ・秋物商戦 ・売上増加 ・売れ筋不明
	パート・アルバイトは不足、賃金UP。 正社員は人材不足。	・人材不足 ・賃金増加
	今月は野菜は地場産を主力に地産地消を図り、消費者の期待に応えたい。果実は秋冬としてみかん、りんご、柿をメインに集荷力を高め、売上拡大を図りたい。これからの季節は、台風等の被害を未然に最小に、安定した入荷、需要供給を維持していきます。	・地産地消 ・集荷力 ・売上拡大 ・需要供給
	今後、涼しくなるにつれシーズンとなるため、売上上昇に期待。	・秋物商戦
	石油の上昇から文具・事務用品は紙製品、ビニール製品の値上げが激しい。販売価格に転嫁できず、厳しい状況。 人材：大型店の出店とららぽーとの募集も始まり、パート従業員が集まらない。柏・我孫子地区では特に厳しい。また、これに伴い人件費が高騰している。業績が心配だ。	・原油高騰 ・価格転嫁 ・大型店開業 ・人材不足 ・人件費増加
	薬価の見直しの据え置き	・薬価見直し
	ガソリン等の価格が地域によって下落気味にある。 原油高騰による	・原油下落 ・原油高騰

【平成18年9月の業種別業界内トピックス】

	<p>高騰を続ける原油価格に引っ張られ、LPガス価格も史上最高圏で推移している。不需要期でもありひっ迫間はさほどないが、これ以上原価が変化すると再値上げを余儀なくされる。真綿で首を絞められている現況から早減少に歯止めかからず。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原油高騰 ・LPガス ・不需要期 ・売上減少
	<p>残暑の影響か、秋物商品の売れ行きが良くない。 柏の葉キャンパス駅に開業する、商業施設の影響が今から心配される。 9月1日から専門店の営業時間を30分延刻したことから、夜間の売上を伸ばしたことと、昨年月初台風に見舞われた反動もあって、月初から売上高は順調な出足となった。 しかし入店客数は依然前年を下回る推移となったが、同じく月初から開催した「Uresii Week」の集客イベントでは多くの集客を図ることができた。 中旬の3連休では台風の影響を受けたのは最終日だけであったが、20日からの給料日前は低調な推移となった。 月末大きなイベントはないが、延刻効果で増加した夜間の顧客に対し、販売の強化を実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋物商戦 ・大型店開業 ・営業時間延長 ・売上増加 ・客数減少 ・イベント好調 ・天候の影響 ・販売強化
サービス	<p>飲酒取締りや景気の変動と、飲食店にとっては向かい風になっているようです。今まで以上に難しい時期を迎えているようです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒取締り ・景気変動 ・厳しい状況
	<p>柏の葉方面の空室の問い合わせが増え始めてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・柏北部地区 ・空室問い合わせ
	<p>スポーツ団体(Jリーグ、バスケット、へらぶな釣り大会)の宿泊。 宴会では展示会の開催が多数有り。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊好調 ・展示会增加

【平成18年9月の多い景気キーワード】

◎原油高騰

- ・ 原油の高騰による原材料の上昇が止まらない。燃料費も50%以上上昇、これから (製造業)
- ・ 石油の上昇から文具・事務用品は紙製品、ビニール製品の値上げが激しい (卸小売業)
- ・ 原油高騰による (卸小売業)
- ・ 高騰を続ける原油価格に引っ張られ、LPガス価格も史場最高圏で推移している (卸小売業)

◎秋物商戦

- ・ 9月に入り気温の低下により秋物の動きが良くなってきているが(衣・食・住ともに昨比クリア)、売上の柱となる売れ筋が不明のため先行きが懸念される (卸小売業)
- ・ 今後、涼しくなるにつれシーズンとなるため、売上上昇に期待 (卸小売業)
- ・ 残暑の影響か、秋物商品の売れ行きが良くない (卸小売業)

平成18年9月のCCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.8に対し、「CCI-LOBO」が▲27.0で、マイナス幅が12.2ポイント小さい。「柏の景気」の方がすべての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.4に対し、「CCI-LOBO」が▲19.1で、マイナス幅が13.7ポイント小さい。「柏の景気」の方がすべての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.5に対し、「CCI-LOBO」が▲29.2で、マイナス幅が11.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、製造業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.1に対し、「CCI-LOBO」が▲30.0で、マイナス幅が9.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・サービス業。10ポイント以上悪い業種は、卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△13.5に対し、「CCI-LOBO」が▲1.1で、プラス幅が14.6ポイント大きい。「柏の景気」の方がすべての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.8に対し、「CCI-LOBO」が▲18.5で、マイナス幅が7.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業。10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。

平成18年9月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 14.8	 26.6	 5.5	 14.8	 28.5
CCI LOBO	 27.0	 43.1	 14.3	 22.0	 33.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 5.4	 20.0	 27.7	 11.1	 21.4
CCI LOBO	 19.1	 34.4	 4.8	 18.3	 23.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 17.5	 46.6	 11.1	 22.2	 14.2
CCI LOBO	 29.2	 45.2	 25.9	 20.6	 34.9

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 39.1	 40.0	 44.4	 40.7	 28.5
CCI LOBO	 30.0	 35.1	 47.6	 14.8	 24.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 13.5	 6.6	 11.1	 18.5	 28.5
CCI LOBO	 1.1	 16.4	 0.2	 4.7	 2.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 10.8	 6.6	 5.5	 18.5	 21.4
CCI LOBO	 18.5	 30.3	 13.3	 14.4	 23.7

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(9月速報)

調査期間：平成18年9月15日～22日

調査対象：全国の407商工会議所が2590業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況D Iのマイナス幅は3カ月ぶりに拡大

九月の業況をみると、全産業合計の業況D I(前年同月比)は、以下同様()は、前月水準()よりマイナス幅が四・ポイント拡大して、二七・〇となり、三カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

【建設業】では、「仕入コスト上昇による採算、資金繰りの悪化は見られるものの、公共工事の発注により対前年同月比で受注が増加した()一般事」との声がある一方、「公共工事が大幅に減少している一方民間工事は若干上昇気味ではあるが仕入コスト上昇により採算面では厳しい状況にある() (建築工事)」、「相変わらず受注量は少なく業況は厳しいのに加え、借入金引き上げ報道で支払利息の増加も懸念され始めている()一般事」との声も寄せられている。

【製造業】では、「引き続き新規発注が多く、採算を重視して受注案件を選別できる状況にある()工業用プラスチック製造」との声がある一方、「原油価格高騰でインクや紙の仕入価格、製品の輸送価格が上昇しており、印刷業界は厳しい状況に追い込まれている()印刷業」と、原油価格高騰による影響を指摘するコメントに加え、「前月末に大手洋服販売チェーンが倒産した影響が大きく

業況はしばらくの間低迷するのではないかと(織物製造)と大型倒産の影響による先行き不安感を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「取引先が増えており、業況は好調だと認識している()農畜産水産物卸売」との声がある一方、「大手呉服販売チェーン倒産の余波を受け、業況がより厳しくなっている()衣服・日用品卸売」と大型倒産の影響を訴えるコメントのほか、「原材料価格高騰の影響が製品の仕入価格が値上げされた()家具・建具等卸売」と、原材料価格高騰の影響を訴える声も寄せられている。

【小売業】では、「残暑が終わって秋物衣料の売上が始まっており、ガソリン高など消費行動を抑制する要因はあるものの、個人消費は停滞しないと考えている()百貨店」との声がある一方、「豪雨の影響で来店客数が減少した()その他の小売」と、台風による影響を訴えるコメントに加え、「地方小売業の景気は好転せず、個人消費が上昇している」としても地方商店街の客足は遠のいたまま()商店街」と、地域間格差を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「イベント開催に伴う宿泊需要の増加に加え、ビジネス客の需要も回復している()旅館」との声がある一方、「ガソリン価格高騰の影響が客足が鈍っている感が

ある()料亭」とのコメントのほか、「経営環境は依然として厳しく、運送単価の低下に加え、原油価格高騰や駐車違反対策によるコストアップが原因で、採算が悪化している()運送業」と、原油価格高騰等によるコスト上昇を訴える声も寄せられている。

九月のキーワード

回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費好調、先行き期待といった声も寄せられている。「増改築需要が増加している()唐津・建築工事」、「依然として顧客の設備投資は活発で一部の会員企業では人材不足感も出てきており、今後も業況は堅調に推移するものと考えている()相模原・金属加工機械製造」とのコメントが寄せられている。また、「九月上旬は昨年に比べ気温が低下した影響で秋物衣料の出荷が好調()福井・繊維品卸売」、「来店者の購買意欲がわずかながら盛り返してきたと感じており、先行きに期待したい()京都・商店街」と一部地域からの消費好調を指摘する声のほか、「近隣で工事が続いており、工事関係者の宿泊で業況は堅調な推移を示している()防府・旅館」とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き公共工事の減少など業況低迷や先行き不透明感、仕入コストの上昇による採算悪化、借入金利の上昇、地域間格差を訴える声も寄せられている。建設製造からは、北海道の建設業は公共工事の減少により一段と厳しい状況に追い込まれている()札幌・一般工事、「原油価格高騰による仕入コスト上昇や借入金利上昇の影響を受けて、資金繰りが悪化している()福山・製材木製品製造」との声も寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「いまだに景気回復の兆しを感じられず、先行き不透明感も強い()焼津・農畜産水産物卸売」、「新聞では景気回復と報道されているが、地方では企業、個人ともに景気が回復しているとは思えない()美濃加茂・商店街」、「建設関係の企業からの受注が減少傾向にある()西条・自動車整備」とのコメントが寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き、原油・素材価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設製造からは、「原油を使用している原料の仕入コストが上昇傾向にある()赤穂・一般工事」、「売上増加に隠れているが、原材料の仕入コスト上昇分を価格に転嫁できておらず、先行きに不安を感じている()さいたま・ブリキ缶等製造」との声も寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「原油価格高騰で商品の仕入・輸送コストが上昇しており、収益の悪化が続いている()土佐清水・食料・飲料卸売」、「原油、エアコンの配管や電線など銅製品の仕入価格上昇が顕著に見られ、先行き見通しが不透明である()新宮・商店街」、「売上に変化は見られないが、送迎バスの燃料代やシーツ等のクリーニング代が上昇し、採算が悪化している()福山・旅館」といったコメントが寄せられている。

全国・産業別業況D Iの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	22.3	40.7	11.5	25.5	18.3	26.1
5月	23.6	40.0	10.5	32.3	22.4	24.6
6月	27.5	44.1	16.1	31.5	23.4	32.5
7月	24.0	36.5	8.3	31.8	22.4	31.4
8月	22.9	34.8	12.8	30.5	19.7	26.7
9月	27.0	43.1	14.3	32.9	22.0	33.3
見通し	21.2	36.6	14.3	28.7	15.8	21.8

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I